

# 観光課設立や人口増へ

## 『身を切る改革は政治姿勢をただすもの』

任期満了に伴う河合町の町長選で、現職との一騎打ちに維新の公認を得て挑み、22票差の接戦を競り勝った森川喜之氏。大阪府以外で維新公認が町長選を勝利するのは初めてのことで「維新が掲げる身を切る改革は政治姿勢をただすためのもの」と語る森川町長は、自身の報酬削減、退職金ゼロを実行。税収入を増やすためこれから、観光課の設立や企業誘致、人口増などに挑む。町の魅力創造に取り組む森川町長に、今後の展望を聞いた。

### 河合町長 森川 喜之氏に聞く

#### ―当選されて感じたことは。―

これまで町議を2期、県議を3期務めてきました。質問する側と受ける側というだけで、これまで違うもののなかと、全然違うなど感じました。

やはり町長一人だけで進めることができません。町長としてやりたいことについては議会の承認や、各委員会、各審議会、そういったところの意見が必要になります。そういったことも違うと感じた一つだと思います。

#### ―財政改革について考えています。―

今の河合町は人口が1万7000人を切っています。そのことから、まずは人口を増やしていくことが一番の目標です。それをす

るためには若い世代、子育て世代に町に住んでもらいたい。そして出ていかないようにすることが必要です。

ここで生まれて、育っても、外へ出ていかれる方が多いので、それをどのようにして残っていたらいいか。そのためには町に住み続けたいという魅力ですね。今の町ではそれが見えにくいものになっています。魅力をつくるためには、やはり色々な事業をしていかなければいけません。

#### ―どのようなことをお考えですか。―

そのための一つとして考えているのが、観光開発です。これまで町に観光課というものがありませんでした。やはり観光資源を発掘することで、観光客を呼び、そこで税収入を増やしていくシステムを作らなければいけません。

それから企業誘致、今ある企業が出ていってしまわないように町として協力できるところは協力していかないといいません。そうすることによって、働く場所、子育てがしやすくなり、住んでもらえるようになればいいなと思っています。

#### ―企業誘致でお考えのこと。―

企業誘致については今ある企業には引っ越しするようないかないうちに努力しないといけません。その

ため色々な手当をすると同時に企業が来やすい環境づくりが必要です。町では農地が多いのですが、農地を持っている方も今、次の世代に引き継いでくれる子どもがいないんです。二代目、三代目と継いでくれる人がいないということは、もう荒地にするしかない。そして転売するしかない。それだったら土地利用を考えてほしいという農家の人の声が今回の選挙で多かったです。

そういった土地利用促進。農業道路か、町の道路を整備していくといった形をとり、土地利用を図るような基礎作りをしていかなければいけないかな。土地と道路というのは必ず隣接します。そういったところから町が道路の整備ができるかどうか、そういったことを変えていきたい。

#### ―観光にしろ企業誘致にしろ道路は必要になりますね。―

道路も大事ですし、観光にはルートが重要になってきます。どういうルートを作るか、役場の前に池部駅と馬見丘陵公園の入り口があるのに、これをうまく利用できていません。例えば池部の駅名の前に「馬見丘陵公園前」と付けてもらえればなど。また町には西名阪のインターチェンジ（IC）があります。名前が「法隆寺IC」になっているんです。外から来る人にはここが河合町ということが分かりにくい状況です。

馬見丘陵公園への観光客が利用する池部駅

馬見丘陵公園への観光客が利用する池部駅



庁舎屋上からの眺め



庁舎前には馬見丘陵公園の入り口がある



ので「河合町はここ」ということをアピールできるように周知していければと考えています。

#### ―公園へのバスなどは出ているのですか。―

公園に行くバスは香芝市の五位堂駅から出ていますが、ここまで来ないんです。なんとかここで止まってもらいたいと県議時代に観光バスの駐車場を整備する案を出したことがあるほどですが実現に至っていません。せっかく土日でも人が多く来てくれる場所があるにもかかわらず河合町を通り越してしまう状況になっています。

そういった状況を変えるためにも観光課が必要だと思います。そして観光のルートを結び付けていく。町には古墳群もあれば、廣瀬大社もある。他にも由緒あるお寺があります。

また、庁舎の屋上からは県内を見渡せる本堂にいい

があります。

場所になっています。これ組み込むことができればなど。そして近隣の町などともルートを結んでいくことができればと考えています。

#### ―これからまず取り組んでいくことは。―

まずは若い人たちに住んでもらえるために、第一事業として保育園、幼稚園、小中学校の給食費の無償化。まずはこれを実現したいです。二番目にバスですね。町内だけではなく町外にも買い物に行けるよう、そういうところとコラボする。これは町だけではできませんので、他町のバスとリンクさせていくようなことを考えていかないといいなと思っています。それこそバスの広域化も一つかなと。

#### ―維新公認での当選について。―

維新の実績というものを

我々は取り入れていかなければいけないと考えています。ですが維新が来て、このしろあしろというのではありません。選挙時に「身を切る改革をすれば骨と皮しか残らない」という声がありました。財政難だから職員を切る、削るというようなことを私はさせません。

それをする前に、本当にお金が無くなってきたらまず止めないといけないのは事業。そういったところから削っていく、住民一人一人に負担をかけることが重要です。

町長としては自分の報酬を30%カットし、退職金をお断りしました。私は身を切る改革で自分自身の姿勢をただすために、自分の身を切ることにしました。つまり維新の身を切る改革というの、住民のことを優先に考えた上で政治姿勢をただすという意味の改革です。